

## 東京農工大学農学部共同獣医学科における生体を利用した実習での動物の取扱いについて

### 1 生体を利用した実習の教育効果、動物福祉、および実験動物倫理等への考え方及び取組

東京農工大学農学部共同獣医学科では、高度獣医医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に貢献できる国際的な視野を持つ獣医師の養成を理念に掲げています。

そのため動物の取扱手技を教育するためには、必要最低限の生体の利用は不可欠であると考えています。生体を利用して実施される実習項目は、獣医学教育コアカリキュラムに定められており、実習科目によって使用する動物種と動物数は異なります。本学科では、生体を利用して実施される実習は、代替法を活用することで極力使用動物数を減らし、動物に苦痛を与えない実習プログラムを実践しています。

生体を用いる実習を行う場合には、文部科学省から発出されている「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」に基づき、すべての動物実習に対して、本学動物実験委員会において審査し、適切な計画であることを確認しています。さらに、令和2年度には、外部の専門家である日本実験動物学会外部検証委員会による検証を受け、第三者目線で動物実験が適切に行われていることを確認しています。

学生に対しては、必修科目である獣医倫理（2単位）及び獣医学概論（2単位）などの時間を利用して、実験動物、産業動物、伴侶動物、野生動物等に関する獣医学的配慮、動物福祉や倫理について、それぞれの分野を担当する獣医系教員が繰り返し教育を行っています。

また、専門科目（必修）としての実験動物学（2単位）や実験動物学実習（1単位）の時間を利用して、特に実験や実習で動物を使用する際の学内申請から承認の手順、獣医学的管理、動物福祉、動物数の削減等に関する重要性を教育しています。

### 2 3R\*および5F\*を含む動物福祉および実験動物倫理等の教育内容、授業科目名（開講年次、単位数）

3R および 5F を含む動物福祉および実験動物倫理等に関する科目ごとの教育内容は以下の通りです。

- ・ 獣医倫理（1年次、2単位）：動物実験における倫理的配慮（3R、5Fを含む）、国際的な動向、動物愛護運動の歴史、動物福祉、実験動物に対する動物福祉対策など
- ・ 獣医学概論（1年次、2単位）：産業動物、伴侶動物、実験動物等に関わる獣医師の役割
- ・ 実験動物学（2年次、2単位）：適切な動物実験と3R、動物福祉と5つの自由、動物実験の歴史、動物実験についての課題と獣医師の責務、実験動物に関する法令等、実験動物の選択と成績評価
- ・ 実験動物学実習（2年次、1単位）：動物福祉に配慮した動物実験計画書の立案と審査およびグループディスカッション、各実験動物に適した麻酔・鎮痛法、各実験動物の取扱手技、動物の獣医学的管理法

\*3R と 5F とは・・・

3R は、(1)実験動物の苦痛の軽減（Refinement） (2)代替法の活用（Replacement） (3) 使用数の削減（Reduction） のことで、5F とは、(1) 飢え・渇きからの自由 (2) 不快からの自由 (3) 痛み・負傷・病気からの自由 (4) 本来の行動がとれる自由 (5) 恐怖・抑圧からの自由からなる動物の5つの自由（The Five Freedoms for Animal） のことで、世界共通の動物福祉の基本理念です。